

社会資本総合整備計画（市街地整備） 事後評価書

平成28年4月11日

計画の名称	68 駅南地区におけるアクセスの向上		
計画の期間	平成22年度 ～ 平成26年度（5年間）	交付対象	水戸市
計画の目標	本地区は、都市再生機構を事業主体とした特定再開発事業が施行されたところであり、ペDESTリアンデッキ等の都市基盤整備をはじめ、拠点施設や民間施設の立地が進められるなど、水戸地方拠点都市の中心都市にふさわしい、魅力ある都市環境が創出されつつある。本地区の幹線道路である都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線の整備を進めることにより、本地区のアクセスの向上を図る。		
計画の成果目標（定量的指標）	・ 借楽園下交差点から水戸駅南口までの移動所要時間を40%短縮する。		
定量的指標の定義及び算定式			定量的指標の現況値及び目標値
			備考
			当初現況値 (H22当初)
			中間目標値 (H24末)
			最終目標値 (H26末)
	借楽園下交差点から水戸駅南口までの車両走行時間を測定する。	5分	5分
			3分
全体事業費	合計 (A+B+C)	461百万円	A
		461百万円	B
		0	C
		0	
		効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	
		0%	

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
水戸市	平成28年4月
	公表の方法
	ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	都市総	一般	水戸市	直接	水戸市	都市再生総合整備事業(水戸駅南口地区)	都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線整備 L=566m	水戸市						461	
合計													461		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計															
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	都市総	一般	水戸市	直接	水戸市	案内板整備事業	案内板の設置	水戸市						0	
合計													0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考
	本市を代表する観光地である偕楽園や千波湖と水戸駅とを結ぶ本路線に案内板を設置することにより、交通の円滑化を図る。														

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況													
I 定量的指標に関連する 交付対象事象の効果の発現状況				<p>・本地区の幹線道路である都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線の整備を進めることにより、本地区のアクセスは向上したが、整備が未完了であるため、目標達成には至らなかった。</p>									
II 定量的指標の達成状況		指標：偕楽園下交差点から水戸駅南口までの車両走行時間の短縮		最終目標値	3分 (H22当初：5分)	目標値と実測値に差が出た要因	都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線の整備について、東日本大震災の影響等により進捗に遅延が生じ、当初計画の一部の完成に留まったため、事業効果が完全には発現しなかった。						
				最終実測値	4分								
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				<p>・本地区の幹線道路であり、水戸駅南口広場に直結する都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線の道路改良及び電線地中化を進めることにより、水戸市の玄関口に相応しい魅力ある都市景観の創出に貢献した。</p>									

3. 特記事項（今後の方針）													
<p>本整備計画において、都市計画道路3・3・175号梅戸橋桜川線の整備が一部完成し、これにより偕楽園下交差点から水戸駅南口までの車両走行時間が1分短縮され、本地区のアクセスの向上という目標が、部分的に達成された。</p> <p>一方、東日本大震災の影響等により、当初計画した全区間の整備完了には至らなかったが、今後も引き続き整備を推進することにより、本地区のアクセスの向上が期待できることから、2期計画を策定し、継続して事業の推進に取り組んでいく。</p>													